籠・排球は地区大会へ

柔・剣道・卓球・体操は惜敗

さわやかな〃スポーツの夏〃を迎え、八月開幕する若者の一大ページェント「県中学総合体育大会」への出場権を最大目標に、横越中学校ではこの前哨戦である、三市中蒲大会に選手を派遣し、早春以来汗して練習した情熱を、〃グランドでコートで発揮した。

郡市大会に於ての結果は、バスケットの男、女チームが昨年に引続いて優勝、バレーボールが三位にくい込み、それぞれ地区大会への出場を可能にしたが、剣道、卓球、柔道体操ともに善戦しながらも惜敗し、今年度の機会を失し明年度への飛躍を期した。

この地区大会に於て、剣道会場となつた横越中学校では、団体リーグでは、一勝二敗。個人戦は椎谷、佐藤両君が三回戦で惜敗し在校応援団をくやしがらせた。

また野球は、新津市民球場で第一戦9対3で巣本中を降し第二戦5対7で白根に惜敗。

卓球は、小須戸町民体育館で、男女とも第二戦で白根に敗れた。

柔道は、白根中会場で、主力が二年生で技術的に差がみられ団体、個人戦とも敗れた体操は、山王中会場で団体総合で五位に入賞し終つた。

地区大会は、新潟市内各会場で7月26、27、28の三日間で男女バスケット。バレーボール。陸上競技（16名が参加）が出場した。球技は四位までで陸上は八位までに入賞すれば県大会に出場が出来る事になつている。（本稿〆切迄に不明）

渡辺光雄教諭談　バスケットは二年生が主力で、技術的には抜群だが、一般的に他チームより、身長の差があり苦戦して来た。またバレーは守備力は抜群で、うま味を見せたが、攻撃面でいま二名のスパイカーがほしい。とにかく期待出来るチームである。

■バスケット（男子）　新津第一中学会場
第一戦　横越59＝35愛宕
第二戦　横越23＝15一中
決勝戦　横越46＝38五泉

■バスケット（女子）　新津第五中学会場
第一戦　横越45＝22亀田
第二戦　横越45＝34二中
決勝戦　横越43＝42一中

■バレーボール（女子）　五泉市民会館会場
第一戦　横越2＝0小合
第二戦　横越2＝1巣本
決勝戦　横越0＝2一中

横越学区育成会長に　増淵一平氏

横越学区育成会（渡辺一会長）は、六月十二日公民館で昭和四十七年度委員総会を開催した。

議事は、
①昭和四十六年度決算報告。
②役員の選出、承認。
③四十七年度事業計画予算案の審議。
④地域子ども会の育成。
で原案どおり決定した。

正副会長の選任では、増淵一平氏が新しく会長に選ばれた。また、副会長に市村景、佐藤登、五十嵐弥吉、高橋良美、皆川忠雄の各氏が選ばれた。

なお委員構成は、部落長、部落委員、民生委員、婦人会青年会、公民館、消防団、交通安全駐在所、小中学校PTA、小中学校学区担当者など代表五十名。

事業では、今年度公民館が重点施策としている地域子ども会の育成を横越学区育成会でも、積極的に取り組むことを話し合い、横越中地区に、子ども会の結成をすることを決定した。

家庭教育　②

「明るい家庭」といわれる家庭ほど、親子の話し合いは多いものです。にぎやかな話し声や、笑い声が、聞こえる家庭ほど、平和で幸福なオアシスはありません。親子の話し合いを、美しく、楽しく、そして豊かにしてゆくためには、どうすればよいのでしょうか。

親と子の話し合い

そーらみれ……………　バチがあたつたんわや

子どもというものは、いつも親と遊びたがり、親子の話し合いを希求しています。

毎日の生活に、たとえ五分でも十分でも、親子がいつしよに話し合うひとときがもてないものだろうか。

しかし、親子の話し合いほどむずかしいものはありません。それでいて親子は、いつも話し合いをとおして家庭生活をしているのです。

「○○ちゃん、お庭のそうじを早くやりなさい」
「いま、勉強しようとしているところだもの。あとでやるよ」
「いつもあとでやるといつておきながら、やつたためしがないじやないの」
「どうして、ぼくばかりいいつけるの」
「あんたは、男でしよう、いうことをきかなければ、お父さんにいいつけますからね」

このような会話は、日常何げなくされています。

そのほかに次のような会話もよく聞かれます。

だからいつたでしよ。
それみなさい、ばちがあたつたのよ。
みんなが見ているわ。笑われちやうわよ。
かつてにしなさい、知りませんからね。

のことばは、日常的であり、課題的、厳格的、慈愛的な内容をもつています。

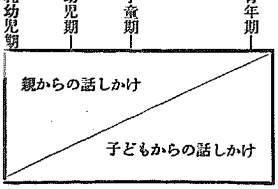
それは、母性愛の発露と思われますが、よきにつけ、わるきにつけ、重要な意味をもつものです。

親子の話し合いは、図のように子どもが幼児であればあるほど、親の一方的通行で子どもは、受け身にまわり、聞き役となっています。

子どもの願いをおしやつておいて「せよ」「するな」という命令語や禁止語であつては、子どもの心情をゆがませるだけです。

子どもに対して、親の命令語や禁止語、または否定語のことばによる行動の期待は、批判的や攻撃的なことばとして、はねかえつてくるものです。

親子の話し合い、特に母親



子どもが児童期、青年期とだんだん成長するにつれて、独立心が旺盛で、自己主張が多くなり、親から離れてゆく傾向で親と話したがらないようです。しかし、問題は父親もさることながら母親は、子どもと話しをする場合、いつまでも「小さな子ども」のつもりで子どもの心理的発達をつかめないでいる。

児童期と、青年期の区別さえつかない。こゝに大きな矛盾があります。

また、青年期の悩みの相談相手は友人がほとんどです。ここにも両親の役割について考える必要があります。そして親子の話し合いの方法、技術を考えなければならないと思います。（泉沢）

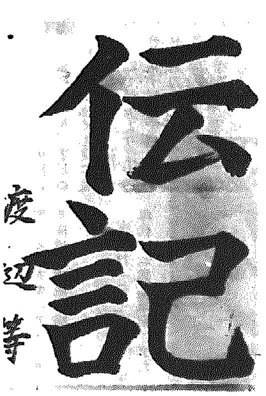
ここまで育てることができた誇り、ここまで育つてくれた喜び、この喜びと誇りが休むことなく続いていく成長への真の思いやりと理解とにつながるよう。

わが子と語り合おう
わが子に語りかけよう

こどもサロン

さかなやさん
木津小学校二年　入山昭彦

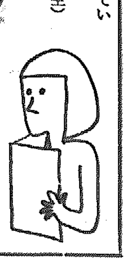
《評》
えんそくで、にいつへ行つたとき見た、さかなやさんのえです。はじめてみた、いきのいい大きなさかなの山に、みんながびつくりしたようすを思い出してかきました。みんなによくわかるようにと、しんせつにかいています。
（木津小　川上マサ先生）



木津小学校五年　渡辺　等

《評》
へんとつくりのつりあいに気をつけ、力強く書くことをねらいました。のびのびと大きく力強くかけていると思います。筆の使い方も手なれた感じがします。横画のうち込み、伝のつくり、ムにもうひと息の練習が必要です。
（木津小　石垣　敏先生）

新刊図書紹介



○日本列島改造論　田中角栄
○いまに生きる良寛　毎日新聞新潟支局
○親を見りやボクの将来知れたもの　矢野寿男
○蒼い高峰群　森村誠一
○おだやかな部屋　瀬戸内晴美
○ジンギス汗（前後編）　榛本捨三
○若者よ朝のこない夜はない　岡谷正澄

そのほかに沢山の図書をとりそろえました。ご利用ください。

8月11日に　新婚学級

〃生まれてくる子どものしあわせのために〃親は、どのような心構えがなければならないかなど今年度前期の新婚学級を開催いたします。

講座参加対象者は、今年三月から七月まで結婚されたものと、この秋結婚を予定しているもので夫婦そろつて多数の参加をお願いします。

期日　八月十一日　午後七時から
会場　横越村公民館
講師　県医務課参事　槐島安子

県社教委大会で　皆川忠雄氏が発表

第八回県市町村社会教育委員研究大会は、去る七月二十二十一日の二日間、十日町市で開催された。

今大会は、社会教育体制の整備と社会教育委員の役割が中心テーマで、分科会で本村社教委、皆川忠雄委員が、農村部会で社会教育の基幹施設である、公民館施設の整備について発表した。

県婦人研修に　永井チエさんを派遣

県では、婦人指導者の資質の向上を図り、婦人団体活動の企画実施に必要な能力を養うため、七月から十月にかけて五回、五十三時間の講座を青少年研修センターや、婦人会館などを会場に開催する。

横越村から永井チエさん（横越上婦人会）を推せんし、講座に派遣した。

スタッフ帖

児童、生徒にとつて楽しい夏休みがやつてきました。

今年も水死事故、交通事故花火事故がなく、みんな元気で新学期を迎えるため、夏休みにおける生活指導を父兄のみなさん、そして地域のみなさんのあたたかいご協力をお願いしたいものです。